

連載企画「つながる」では年間を通じて、人間関係の豊かさが暮らしや地域の再生とどうかかわるかを考えている。国内の事例などを紹介した第一部に続き、今回は海外事情をお伝えする。コミュニティの成熟度が高いと言われる米国オレゴン州・ポートランドと、イタリア・ボローニャを訪ね、地域社会の成り立ちや先進的な取り組みなどを取材した。

つながる ①

第2部 海外報告

ポートランド市の南東部にある住宅街の交差点。歩道の一角にあるテーブルが目に留まった。カップやポット、ティーバッグが置かれ、自由にお茶を飲める。

向かいの家から出てきたマイク・ジョーンズさん(30)は、「ニューヨークとかいろいろな街に住んできたけれど、こんな場所は初めてだね」と話す。

四つ角すべてが住民の交流の場だ。反対側の角には木製の棚があり、食器や衣類など不用品が並んでいる。自転車で通りかかったマーク・ランデスさん(48)は、「昨日はズボンをもらい、代わりに花瓶を置いてきたよ」。古本や雑誌の本棚、伝言板、子どもの遊び場もある。

通り過ぎていただけの交差点にみんなが立ち寄り、顔見知りになる。お互いのことがわかると助け合いの精神も生まれる。昨年10月には住民の結婚式もここで行われた。

人と人が出会う交差点などの公共空間を、地域社会の中心にしようという市民運動「シティーリペアー(街の修繕)」がポートランドで始まったのは1990年代だ。

建物や路面をカラフルに塗ったり、歩道に奇抜なデザインのベンチを設けたりして、人が集う空間を作り出す。NPO(非営利組



ポートランド 米国北西部の太平洋側、豊かな自然に恵まれたオレゴン州最大の都市。人口約55万人。近隣自治体を含む広域経済圏(人口約200万人)をポートランドと呼ぶこともある。

交差点に住民交流の場

織)が運動の事務局を務め、作業は住民自身が行う。市内約100か所にこうした場所ができた。

運動を始めたメンバーの1人、マーク・レイクマンさん(46)は「車社会の進展で、地域の温かみや住民同士の付き合いがなくなってきた。そのことに危機感を抱いた」と説明する。

当初、市当局は公共空間に手を加えることに難色を示したが、地域社会の人間関係作りで役立つと、理解を示すようになった。運動の輪は、米国内の他の都市やカナダにも広がっている。

現地を取材中、「センス・オブ・コミュニティ」という言葉を何度か耳にした。「その地域に自分が属しているという意識・感覚(センス)」といった意味だろう。市南西部に住むジム・セイヤーさん55は、「家や自動車の中に閉じこもらず、道路や店など公共

米・ポートランド 高い公共性への意識



ことに強い危機感が生じたのです」

米国では近年、地域への関心が薄れ、集会やボランティア活動への参加率が低下した。テレビの普及、車社会の進展で人間関係が希薄になり、治安や福祉など社会環境の悪化も懸念される。ポートランドも同じ事態に直面しているが、集会などの参加率は逆に高まっている。「公共性」についての高い意識が、新たな仕組み作りにつながった。

これに対し、エミリア・ロマーニャ州では、伝統的な慣習や規範がソーシャルキャピタルの蓄積につながり、それをもって地域社会が成り立っている。障害者の支援、中小企業の連携などで、社会的にも経済的にも豊かさを実現している様子を連載後半で紹介する。

この連載企画では、人間同士の社会的なつながりを「ソーシャルキャピタル(社会関係資本)」と呼び、地域を元気にする資源と位置づける考え方を紹介してきた。

米国の政治学者、ロバート・パットナムらの研究で、米国ではオレゴン州ポートランド、イタリアではボローニャを中心とするエミリア・ロマーニャ州のソーシャルキャピタル指数が高いとされた。

オレゴン州では、環境保護のため、海岸を私有地と認めない法律が制定されている。公共の場や物を守るという意識がもともと強い地域だと、ポートランド州立大学のスティーブ・ジョンソン教授—写真—は説明する。「『公共性』について敏感な住民が多く、人間同士の触れ合いがなくなる

芽生える助け合い

整備するボランティアを続けている。車社会が到来する以前、買い物や通学に使われていた道が、新しい橋の下などに埋もれていく。「歩くことで人々は出会い、会話を積み重ね、共同体の一員だ」という意識が生まれる」とセイヤーさん。

が高まれば、地域の課題に対し、みんなが関心を持つようになる。セイヤーさんが住む地域では、公園の閉鎖や土砂崩れなど何かが問題が持ち上がると、すぐに住民が話し合いの場を持つようになった。「歩道の復元が少しは役に立ったかな」と、セイヤーさんは思っている。(鳥越恭、写真も)

⑤交差点の角のテーブルでお茶を1杯。近隣住民の憩いの場になっている(ポートランドの9番街・シェレット通り交差点で) ⑥道路沿いに突如出現する奇抜なデザインの触れ合いスペース。伝言板には地元情報のチラシが張られている(マティソン通りで)



くらし 家庭